

スコアシート	CASBEE神戸の重要項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質・性能</b>							<b>3.9</b>
<b>Q-1 室内環境</b>							<b>3.9</b>
<b>1 音環境</b>			<b>4.2</b>	0.40			<b>4.2</b>
<b>1.1 騒音</b>			<b>4.0</b>	0.40			
1 暗騒音レベル		NC40~43 間仕切遮音、空調騒音の低減	4.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策			-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>			<b>4.6</b>	0.40			
1 開口部遮音性能		T-2性能	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		D40	4.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>		天井:GB12.5+岩綿吸音板12.5、床:タイルカーペット=7	<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>			<b>3.3</b>	0.35			<b>3.3</b>
<b>2.1 室温制御</b>			<b>3.7</b>	0.50			
1 室温設定			3.0	0.30	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性			-	-	-	-	
3 外皮性能		ペアガラスの採用(Low-e+普通ガラス)外壁断熱材、屋根断熱工	4.0	0.20	3.0	-	
4 ソーン別制御性		各階ゾーンを東西南北に4分割、ペリメーターゾーン冷暖選択可能	4.0	0.50	-	-	
5 温度・湿度制御			-	-	-	-	
6 個別制御			-	-	-	-	
7 時間外空調			-	-	-	-	
8 新機システム			-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>			<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>			<b>4.4</b>	0.25			<b>4.4</b>
<b>3.1 昼光利用</b>			<b>4.2</b>	0.30			
1 昼光率		南北面は柱以外の部分を開口部としている	5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口			-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>			<b>4.0</b>	0.30			
1 遮光器具のグレア			-	-	-	-	
2 昼光制御		ブラインドと庇にて制御している	4.0	1.00	3.0	-	
<b>3.3 照度</b>			<b>5.0</b>	0.15			
1 照度		1000Lxを確保	5.0	1.00	3.0	-	
2 照度均斉度			-	-	-	-	
<b>3.4 照明制御</b>			<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
		各階スパン毎に個別制御・端末にて調整可能としている	-	-	-	-	
<b>4 空気環境</b>			<b>4.3</b>	0.25			<b>4.3</b>
<b>4.1 発生源対策</b>			<b>5.0</b>	0.50			
1 化学物質汚染		全般的にF☆☆☆☆を採用 その他のVODが少い建材の使	5.0	1.00	3.0	-	
2 ホルムアルデヒド対策			-	-	-	-	
3 グリーン化対策			-	-	-	-	
4 放射線対策			-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>			<b>3.0</b>	0.30			
1 換気量			3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能			3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	3.0	-	
4 結露対策			-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>			<b>4.5</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視		手動による計測及び管理マニュアルの整備を行う	4.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物内完全分煙化	5.0	0.50	-	-	
<b>Q-2 サービス性能</b>			-	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 機能性</b>			<b>4.2</b>	0.40			<b>4.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>4.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性		執務スペース 9㎡/人以上確保	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		OA707の採用・コンセント容量50VA/㎡以上	5.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>4.6</b>	0.40			
1 広さ感・景観		執務室天井高2700確保、南北外壁面は柱以外は窓として	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		各階に喫煙室・自販機コーナーのあるリフレッシュスペースを設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		建物コンセプトに基づき、各エリアの機能に合わせた内装計画	5.0	0.33	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.5</b>	0.31			<b>3.5</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>			<b>3.0</b>	0.48			
1 建物のつよさ	耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 建物の揺れにくさ	耐震性		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>4.1</b>	0.33			
1 外壁仕上げ材の補修必要間隔		花崗岩・アルミ・スチール建具・フッ素塗装等	5.0	0.29	-	-	
2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイル・塩ビタイル・ビニルシート・カーペット・ビニルクロス	5.0	0.12	-	-	
3 配管・配線材の更新必要間隔		更新時期が16~30年の材料を使用	4.0	0.29	-	-	
4 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.29	-	-	
<b>2.3 適切な更新</b>			-	-	-	-	
1 屋上(屋根)・外壁仕上げ材の更新			-	-	-	-	
2 配管・配線材の更新			-	-	-	-	
3 主要設備機器の更新			-	-	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>4.0</b>	0.19			
1 空調・換気設備	耐震性	災害時に全機能停止にならない対策・負荷容量低減対応	4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	耐震性	節水型器具の採用・洗浄水に中水利用	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備	耐震性	非常電源・無停電電源の設置 浸水の危険性がない	5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震性		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	耐震性	光ケーブルの採用・精密機器は浸水の危険性がない	4.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>				4.4	0.29			4.4
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1 階高のゆとり			階高4.1m	5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.097	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり			5000N/㎡以上で計画	5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.4	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性			二重床・天井点検口の適性配置による更新性の向上	5.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース			設備機器のバックアップスペースを計画的に確保	4.0	0.22			
<b>Q-3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30			3.8
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観	広域的又近隣環境に寄与する計画 夜間ライトアップ設備の設置	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								4.0
<b>LR-1 エネルギー</b>				-	0.40			4.3
1 建物の熱負荷抑制			Low-eガラス・庇・外壁屋根断熱の採用によりPAL値の低減	5.0	0.30			5.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用			全館にナイトバージを採用	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			建物PAL値の低減、各設備の省エネルギー化	4.0	0.30			4.0
4 効率的運用				4.5	0.20			4.5
4.1 モニタリング			中央監視盤にて電力量を計測	4.0	0.50			
4.2 運用管理体制			運用・維持・保全の基本方針の策定	5.0	0.50			
<b>LR-2 資源・マテリアル</b>				-	0.30			4.0
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			擬音装置・節水型便器等の省水型機器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水再利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム				3.0	0.67			
2 雑排水利用システム				3.0	0.33			
2 低環境負荷材				4.1	0.85			4.1
2.1 資源の再利用効率				4.6	0.35			
1 躯体材料の再利用効率			鉄骨SS400使用・RC部分高炉セメントB種使用	5.0	0.67			
2 非構造材料の再利用効率			廃ガラスを再利用した舗装材ブロックを採用	4.0	0.33			
2.2 持続可能な森林から産出された木材			持続可能な森林より産出した木材を50%使用	5.0	0.04			
2.3 有害物質を含まない材料			塗料・接着剤・シーリング材に有害物質を含まない製品を使用	5.0	0.08			
2.4 既存建築躯体などの再利用				3.0	0.18			
2.5 部材の再利用可能性			乾式工法なので躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.18			
2.6 フロン・ハロンの回避				4.0	0.18			
1 消火剤			ハロン消火剤を使用していない	4.0	0.33			
2 断熱材			ODP=0 GWPが低い発泡剤を使用	5.0	0.33			
3 冷媒				3.0	0.33			
<b>LR-3 敷地外環境</b>				-	0.30			3.6
1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.15			5.0
2 騒音・振動・悪臭の防止				5.0	0.15			5.0
2.1 騒音			隣地境界線において基準値以下の騒音対策	5.0	1.00			
2.2 振動				-	-			
2.3 悪臭				-	-			
3 風害、日照阻害の抑制				3.0	0.15			3.0
3.1 風害の抑制				3.0	0.70			
3.2 日照阻害の抑制				3.0	0.30			
4 光害の抑制			光がドライン・広告物がドラインに準じて計画している	5.0	0.10			5.0
5 温熱環境悪化の改善				2.0	0.30			2.0
6 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.15			4.0
6.1 雨水処理負荷抑制				-	-			
6.2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
6.3 交通負荷抑制			駐輪場・駐車場の適正台数の確保、一方通行による出入口	5.0	0.33			
6.4 廃棄物処理負荷			分別ゴミ収集場を各階に設置	4.0	0.33			

■ LR-1 用途別得点表		事務所		-	-	-	面積按分 総合スコア
		38570	㎡	-	-	-	
1	建物の熱負荷抑制	5.0	-	-	-	-	5.0
3	設備システムのERRIによる評価	4.0	-	-	-	-	4.0
	高効率化 個別設備による評価	-	-	-	-	-	
3.1	空調設備	3.0	-	-	-	-	-
3.2	換気設備	5.0	-	-	-	-	-
3.3	照明設備	5.0	-	-	-	-	-
3.4	給湯設備	-	-	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	5.0	-	-	-	-	-